

第2章 患者調査

1 調査施設

今回調査を実施した施設は、病院 52 施設である。

「島根県患者調査」は、平成 14 年までは厚生労働省が実施する抽出調査に加え、ほぼ全医療機関で調査を実施していた。平成 20 年について、病院は全数調査、一般診療所と歯科診療所は国の調査に準じて指定された施設のみ調査を実施したが、平成 23 年から病院のみの全数調査とした(表 2-1)。

表 2-1 調査対象施設数及び実施施設数

	平成20年			平成23年			平成26年		
	医療施設数	調査実施施設数	調査率(%)	医療施設数	調査実施施設数	調査率(%)	医療施設数	調査実施施設数	調査率(%)
総数	1,087	182	16.7	1,068	54	5.1	1,049	52	5.0
病院	57	57	100.0	54	54	100.0	52	52	100.0
一般診療所	745	101	13.6	732	-	-	723	-	-
歯科診療所	285	24	8.4	282	-	-	274	-	-

注1 医療施設数は、「医療施設調査」(厚生労働省)による。平成26年は、平成26年10月1日現在の施設数。

2 調査実施施設数は、医療施設数から休診等の調査不能施設数や特別養護老人ホームの診療所で外来患者がなかったもの等を除外したものである。

2 患者数

調査当日に病院で受療した患者総数は、18,008 人である。

(1) 入院-外来別

入院-外来別にみた患者数は、入院 8,928 人、外来 9,080 人である。

また、患者数の年次推移をみると、外来は平成 8 年をピークに、入院は平成 11 年をピークに減少している(表 2-2)。

表 2-2 年次別・入院-外来別患者数、構成割合(病院)

調査年	患者数(人)			構成割合(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
昭和48年	14,830	7,120	7,710	100.0	48.0	52.0
昭和53年	15,132	7,131	8,001	100.0	47.1	52.9
昭和59年	16,638	7,200	9,438	100.0	43.3	56.7
平成 2年	21,839	9,889	11,950	100.0	45.3	54.7
平成 5年	23,018	9,912	13,106	100.0	43.1	56.9
平成 8年	24,812	10,304	14,508	100.0	41.5	58.5
平成11年	24,013	10,579	13,434	100.0	44.1	55.9
平成14年	22,434	10,329	12,105	100.0	46.0	54.0
平成17年	21,401	10,393	11,008	100.0	48.6	51.4
平成20年	19,832	9,622	10,210	100.0	48.5	51.5
平成23年	18,824	9,429	9,395	100.0	50.1	49.9
平成26年	18,008	8,928	9,080	100.0	49.6	50.4

(2) 性・年齢階級別

性別の患者数をみると、男 8,315 人、女 9,684 人である。

年齢階級別患者の構成割合を入院で見ると、男で最も高いのは 80~84 歳で全体の 14.4% を占め

る。女で最も高いのは85～89歳で17.0%を占める。外来については男で最も高いのは65～69歳で全体の13.5%を占める。女で最も高いのは80～84歳で全体の12.2%を占める(表2-3、表2-4)。

表2-3 性・年齢階級・入院-外来別患者数(病院)

(単位:人)

年齢階級	総数				入院				外来			
	総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳
総数	18,008	8,315	9,684	9	8,928	4,057	4,867	4	9,080	4,258	4,817	5
0歳	142	91	51	-	62	38	24	-	80	53	27	-
1歳	82	48	34	-	16	8	8	-	66	40	26	-
2歳	61	41	20	-	10	7	3	-	51	34	17	-
3歳	53	30	23	-	9	6	3	-	44	24	20	-
4歳	44	21	23	-	5	1	4	-	39	20	19	-
1～4歳	240	140	100	-	40	22	18	-	200	118	82	-
5～9歳	154	98	56	-	13	6	7	-	141	92	49	-
10～14歳	153	86	67	-	46	25	21	-	107	61	46	-
15～19歳	163	86	77	-	47	24	23	-	116	62	54	-
20～24歳	197	67	130	-	84	37	47	-	113	30	83	-
25～29歳	320	93	227	-	113	43	70	-	207	50	157	-
30～34歳	435	131	304	-	156	52	104	-	279	79	200	-
35～39歳	543	208	335	-	177	81	96	-	366	127	239	-
40～44歳	573	267	306	-	199	110	89	-	374	157	217	-
45～49歳	526	253	273	-	198	98	100	-	328	155	173	-
50～54歳	649	335	314	-	247	140	107	-	402	195	207	-
55～59歳	951	546	403	2	392	246	144	2	559	300	259	-
60～64歳	1,444	826	617	1	640	397	243	-	804	429	374	1
65～69歳	1,849	1,035	813	1	815	460	355	-	1,034	575	458	1
70～74歳	1,839	973	864	2	833	437	395	1	1,006	536	469	1
75～79歳	2,120	1,040	1,080	-	1,093	556	537	-	1,027	484	543	-
80～84歳	2,417	1,038	1,377	2	1,375	584	791	-	1,042	454	586	2
85～89歳	1,885	675	1,209	1	1,273	446	826	1	612	229	383	-
90～94歳	998	248	750	-	782	185	597	-	216	63	153	-
95～99歳	352	73	279	-	289	64	225	-	63	9	54	-
100歳以上	57	6	51	-	53	6	47	-	4	-	4	-
不詳	1	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-
65歳以上(再掲)	11,517	5,088	6,423	6	6,513	2,738	3,773	2	5,004	2,350	2,650	4
70歳以上(再掲)	9,668	4,053	5,610	5	5,698	2,278	3,418	2	3,970	1,775	2,192	3
80歳以上(再掲)	5,709	2,040	3,666	3	3,772	1,285	2,486	1	1,937	755	1,180	2

表2-4 性・年齢階級・入院-外来別患者数及び構成割合(病院)

(単位%)

年齢階級	総数			年齢階級	総数				入院				外来			
	総数	入院	外来		総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳	総数	男	女	不詳
総数	100	49.6	50.4	総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
0歳	100	43.7	56.3	0歳	0.8	1.1	0.5	-	0.7	0.9	0.5	-	0.9	1.2	0.6	-
1歳	100	19.5	80.5	1歳	0.5	0.6	0.4	-	0.2	0.2	0.2	-	0.7	0.9	0.5	-
2歳	100	16.4	83.6	2歳	0.3	0.5	0.2	-	0.1	0.2	0.1	-	0.6	0.8	0.4	-
3歳	100	17.0	83.0	3歳	0.3	0.4	0.2	-	0.1	0.1	0.1	-	0.5	0.6	0.4	-
4歳	100	11.4	88.6	4歳	0.2	0.3	0.2	-	0.1	-	0.1	-	0.4	0.5	0.4	-
1～4歳	100	16.7	83.3	1～4歳	1.3	1.7	1.0	-	0.4	0.5	0.4	-	2.2	2.8	1.7	-
5～9歳	100	8.4	91.6	5～9歳	0.9	1.2	0.6	-	0.1	0.1	0.1	-	1.6	2.2	1.0	-
10～14歳	100	30.1	69.9	10～14歳	0.8	1.0	0.7	-	0.5	0.6	0.4	-	1.2	1.4	1.0	-
15～19歳	100	28.8	71.2	15～19歳	0.9	1.0	0.8	-	0.5	0.6	0.5	-	1.3	1.5	1.1	-
20～24歳	100	42.6	57.4	20～24歳	1.1	0.8	1.3	-	0.9	0.9	1.0	-	1.2	0.7	1.7	-
25～29歳	100	35.3	64.7	25～29歳	1.8	1.1	2.3	-	1.3	1.1	1.4	-	2.3	1.2	3.3	-
30～34歳	100	35.9	64.1	30～34歳	2.4	1.6	3.1	-	1.7	1.3	2.1	-	3.1	1.9	4.2	-
35～39歳	100	32.6	67.4	35～39歳	3.0	2.5	3.5	-	2.0	2.0	2.0	-	4.0	3.0	5.0	-
40～44歳	100	34.7	65.3	40～44歳	3.2	3.2	3.2	-	2.2	2.7	1.8	-	4.1	3.7	4.5	-
45～49歳	100	37.6	62.4	45～49歳	2.9	3.0	2.8	-	2.2	2.4	2.1	-	3.6	3.6	3.6	-
50～54歳	100	38.1	61.9	50～54歳	3.6	4.0	3.2	-	2.8	3.5	2.2	-	4.4	4.6	4.3	-
55～59歳	100	41.2	58.8	55～59歳	5.3	6.6	4.2	22.2	4.4	6.1	3.0	22.2	6.2	7.0	5.4	-
60～64歳	100	44.3	55.7	60～64歳	8.0	9.9	6.4	11.1	7.2	9.8	5.0	-	8.9	10.1	7.8	20.0
65～69歳	100	44.1	55.9	65～69歳	10.3	12.4	8.4	11.1	9.1	11.3	7.3	-	11.4	13.5	9.5	20.0
70～74歳	100	45.3	54.7	70～74歳	10.2	11.7	8.9	22.2	9.3	10.8	8.1	11.1	11.1	12.6	9.7	20.0
75～79歳	100	51.6	48.4	75～79歳	11.8	12.5	11.2	-	12.2	13.7	11.0	-	11.3	11.4	11.3	-
80～84歳	100	56.9	43.1	80～84歳	13.4	12.5	14.2	22.2	15.4	14.4	16.3	-	11.5	10.7	12.2	40.0
85～89歳	100	67.5	32.5	85～89歳	10.5	8.1	12.5	11.1	14.3	11.0	17.0	11.1	6.7	5.4	8.0	-
90～94歳	100	78.4	21.6	90～94歳	5.5	3.0	7.7	-	8.8	4.6	12.3	-	2.4	1.5	3.2	-
95～99歳	100	82.1	17.9	95～99歳	2.0	0.9	2.9	-	3.2	1.6	4.6	-	0.7	0.2	1.1	-
100歳以上	100	93.0	7.0	100歳以上	0.3	0.1	0.5	-	0.6	0.1	1.0	-	0.0	-	0.1	-
不詳	100	100	-	不詳	0.0	0.0	0.0	-	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	-
65歳以上(再掲)	100	56.6	43.4	65歳以上(再掲)	64.0	61.2	66.3	66.7	73.0	67.5	77.5	22.2	55.1	55.2	55.0	80.0
70歳以上(再掲)	100	58.9	41.1	70歳以上(再掲)	53.7	48.7	57.9	55.6	63.8	56.1	70.2	22.2	43.7	41.7	45.5	60.0
80歳以上(再掲)	100	66.1	33.9	80歳以上(再掲)	31.7	24.5	37.9	33.3	42.2	31.7	51.1	11.1	21.3	17.7	24.5	40.0

(3) 傷病分類別

傷病大分類別に総患者数をみると、「V精神及び行動の障害」2,649人（患者総数の14.7%）が最も多く、次いで「IX循環器系の疾患」2,567人（同14.3%）、「II新生物」1,961人（同10.9%）の順であった。

入院患者については、「V精神及び行動の障害」1,805人（入院患者総数の20.2%）、「IX循環器系の疾患」1,550人（同17.4%）、「IV神経系の疾患」1,135人（同12.7%）の順である。外来患者については、「XIII筋骨格系及び結合組織の疾患」1,096人（外来患者総数の12.1%）、「II新生物」1,031人（同11.4%）、「IX循環器系の疾患」1,017人（同11.2%）の順である（表2-5）。

表2-5 入院-外来・傷病大分類別患者数、割合（病院）

傷病大分類	総数(人)			割合(%)		
	総数	入院	外来	総数	入院	外来
総数	18,008	8,928	9,080	100.0	100.0	100.0
I 感染症及び寄生虫症	315	122	193	1.7	1.4	2.1
II 新生物	1,961	930	1,031	10.9	10.4	11.4
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	112	44	68	0.6	0.5	0.7
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	851	194	657	4.7	2.2	7.2
V 精神及び行動の障害	2,649	1,805	844	14.7	20.2	9.3
VI 神経系の疾患	1,659	1,135	524	9.2	12.7	5.8
VII 眼及び付属器の疾患	310	79	231	1.7	0.9	2.5
VIII 耳及び乳様突起の疾患	99	7	92	0.5	0.1	1.0
IX 循環器系の疾患	2,567	1,550	1,017	14.3	17.4	11.2
X 呼吸器系の疾患	989	587	402	5.5	6.6	4.4
XI 消化器系の疾患	1,059	385	674	5.9	4.3	7.4
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	237	69	168	1.3	0.8	1.9
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,579	483	1,096	8.8	5.4	12.1
XIV 尿路性器系の疾患	936	249	687	5.2	2.8	7.6
XV 妊娠、分娩及び産じょく	164	100	64	0.9	1.1	0.7
XVI 周産期に発生した病態	54	43	11	0.3	0.5	0.1
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	80	49	31	0.4	0.5	0.3
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	271	77	194	1.5	0.9	2.1
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,564	962	602	8.7	10.8	6.6
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	552	58	494	3.1	0.6	5.4

年齢階級別・傷病分類別患者数を病院でみると、0歳は「XVI周産期に発生した病態」、1～4歳及び5～9歳は「X呼吸器系の疾患」、10～14歳、15～19歳、20～39歳及び40～64歳は「V精神及び行動の障害」、65歳以上は「IX循環器系の疾患」が一番多い（表2-6）。

表2-6 年齢階級別・傷病分類別・患者数（病院：入院+外来）

傷病大分類	総数	(単位:人)											
		0歳	1~4歳	5~9歳	10~14歳	15~19歳	20~39歳	40~64歳	65歳以上	不詳	70歳以上(再掲)	80歳以上(再掲)	
総数	18,008	142	240	154	153	163	1,495	4,143	11,517	-	1	9,838	5,542
I 感染症及び寄生虫症	315	4	14	5	1	3	33	72	183	-	-	168	92
II 新生物	1,961	3	3	2	2	6	61	548	1,336	-	-	976	435
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	112	2	-	1	-	-	11	27	71	-	-	61	33
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	851	1	4	2	4	5	51	233	551	-	-	485	245
V 精神及び行動の障害	2,649	-	16	25	42	37	329	1,002	1,198	-	-	887	387
VI 神経系の疾患	1,659	2	11	16	27	31	150	324	1,097	1	936	588	
VII 眼及び付属器の疾患	310	4	1	-	3	3	4	48	247	-	250	129	
VIII 耳及び乳様突起の疾患	99	3	5	2	2	1	4	20	62	-	34	17	
IX 循環器系の疾患	2,567	-	4	2	-	4	31	315	2,211	-	1,999	1,308	
X 呼吸器系の疾患	989	26	74	28	10	2	58	114	677	-	650	453	
XI 消化器系の疾患	1,059	5	14	6	1	5	84	304	640	-	509	247	
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	237	7	13	9	1	3	13	42	149	-	187	107	
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,579	1	6	6	6	18	52	346	1,144	-	968	477	
XIV 尿路性器系の疾患	936	1	2	6	2	3	102	232	588	-	529	298	
XV 妊娠、分娩及び産じょく	164	1	1	-	-	1	143	16	2	-	-	-	
XVI 周産期に発生した病態	54	45	4	1	-	-	4	-	-	-	-	-	
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	80	12	12	6	8	4	16	12	10	-	6	1	
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	271	4	14	7	4	5	20	54	163	-	147	94	
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,564	3	18	20	39	28	111	295	1,050	-	870	531	
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	552	18	24	10	1	4	218	139	138	-	176	100	

(4) 病床の種類別

入院患者を病院の病床の種類別にみると、精神病床 1,977 人、結核病床 8 人、療養病床（医療保険）1,621 人、療養病床（介護保険）335 人、一般病床 4,985 人となっている。

これを傷病大分類別にみると、療養病床（医療保険と介護保険あわせて）では「IX循環器系の疾患」752 人が一番多く、次いで「VI神経系の疾患」364 人が多い。一般病床では「II新生物」855 人が一番多く、次いで「XIX損傷、中毒及びその他の外因の影響」794 人、「IX循環器系の疾患」791 人が多い（表 2-7）。

表 2-7 傷病大分類・病院の病床の種類別入院患者数

(単位:人)

傷病大分類	総数	精神病床	感染症 病床	結核病床	療養病床 (医療保 険)	療養病床 (介護保 険)	一般病床	不詳
総数	8,928	1,977	-	8	1,621	335	4,985	2
I 感染症及び寄生虫症	122	-	-	7	14	1	100	-
II 新生物	930	-	-	-	63	12	855	-
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	44	-	-	-	3	2	39	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	194	6	-	-	49	12	127	-
V 精神及び行動の障害	1,805	1,609	-	-	122	32	41	1
VI 神経系の疾患	1,135	343	-	-	297	67	428	-
VII 眼及び付属器の疾患	79	-	-	-	-	1	78	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	7	-	-	-	-	-	7	-
IX 循環器系の疾患	1,550	7	-	-	609	143	791	-
X 呼吸器系の疾患	587	1	-	-	94	3	489	-
XI 消化器系の疾患	385	-	-	-	27	5	353	-
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	69	-	-	-	14	-	55	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	483	-	-	-	91	27	364	1
XIV 尿路性生殖器系の疾患	249	-	-	1	54	4	190	-
XV 妊娠、分娩及び産じょく	100	-	-	-	-	-	100	-
XVI 周産期に発生した病態	43	-	-	-	-	-	43	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	49	-	-	-	10	1	38	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	77	7	-	-	24	1	45	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	962	4	-	-	140	24	794	-
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	58	-	-	-	10	-	48	-

(5) 二次医療圏別

患者の住所地（二次医療圏）別の患者数を人口10万人あたりの受療率で比較すると、雲南圏が最も多く、次いで隠岐圏、大田圏、浜田圏、益田圏、松江圏、出雲圏の順となっている（表2-8）。

表2-8 患者住所地（二次医療圏）・入院-外来別患者数、割合、受療率（病院）

		患者数(人)			割合(%)			受療率(人口10万対)		
		総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来
患者 住所 地	総数	18,008	8,928	9,080	100.0	100.0	100.0	2,584	1,281	1,303
	松江圏	5,357	2,825	2,532	29.7	31.6	27.9	2,175	1,147	1,028
	雲南圏	2,121	981	1,140	11.8	11.0	12.6	3,653	1,689	1,963
	出雲圏	3,683	1,840	1,843	20.5	20.6	20.3	2,161	1,080	1,081
	大田圏	1,659	784	875	9.2	8.8	9.6	2,987	1,412	1,575
	浜田圏	2,339	1,151	1,188	13.0	12.9	13.1	2,793	1,374	1,419
	益田圏	1,656	862	794	9.2	9.7	8.7	2,651	1,380	1,271
	隠岐圏	736	223	513	4.1	2.5	5.6	3,591	1,088	2,503
	県外	457	262	195	2.5	2.9	2.1	.	.	.
	不詳	-	-	-	-	-	-	.	.	.

また、施設所在地別の患者数をみると、松江圏が最も多く、次いで出雲圏となっており、この両圏域を合わせると県全体の約6割を占めている（表2-9）。

表2-9 施設所在地（二次医療圏）・入院-外来別患者数、割合（病院）

		患者数(人)			割合(%)			(参考)施設の状況	
		総数	入院	外来	総数	入院	外来	施設数	病床数
施設 所在 地	総数	18,008	8,928	9,080	100.0	100.0	100.0	52	11,003
	松江圏	6,184	3,391	2,793	34.3	38.0	30.8	16	4,115
	雲南圏	1,408	594	814	7.8	6.7	9.0	5	702
	出雲圏	4,486	2,215	2,271	24.9	24.8	25.0	11	2,774
	大田圏	1,136	515	621	6.3	5.8	6.8	4	728
	浜田圏	2,404	1,178	1,226	13.3	13.2	13.5	9	1,431
	益田圏	1,786	916	870	9.9	10.3	9.6	5	1,094
	隠岐圏	604	119	485	3.4	1.3	5.3	2	159

(注)施設数・病床数は、「平成26年医療施設調査」(厚生労働省)(平成26年10月1日現在)による。

次に、圏域別に傷病分類別患者数をみると、入院で最も患者数が多い傷病は、松江、大田、浜田、益田、隠岐圏では「Ⅴ精神及び行動の障害」であり、雲南、出雲圏では「Ⅸ循環器系の疾患」である。外来で最も患者数が多い傷病は、松江では「Ⅴ精神及び行動の障害」、雲南、浜田、益田、隠岐圏では「Ⅷ筋骨格系及び結合組織の疾患」、出雲、大田、益田圏では「Ⅱ新生物」である（益田圏はⅡとⅧが同数一位）（表2-10、表2-11）。

表2-10 患者の住所地（二次医療圏）・傷病大分類・入院-外来別患者数（病院）

傷病大分類	病院総数																		(単位:人)					
	松江圏			雲南圏			出雲圏			大田圏			浜田圏			益田圏			隠岐圏					
	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来	総数	入院	外来			
総数	17,551	8,666	8,885	5,357	2,825	2,532	2,121	981	1,140	3,683	1,840	1,843	1,659	784	875	2,339	1,151	1,188	1,656	862	794	736	223	513
I 感染症及び寄生虫症	311	120	191	103	41	62	27	9	18	60	27	33	20	8	12	42	19	23	30	10	20	29	6	23
II 新生物	1,928	911	1,017	558	299	259	206	98	108	496	202	294	206	81	125	211	108	103	183	92	91	68	31	37
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機 関の障害	106	42	64	25	8	17	18	8	10	23	11	12	9	4	5	12	8	4	11	2	9	8	1	7
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	839	192	647	237	65	172	80	23	57	194	39	155	92	21	71	129	29	100	63	13	50	44	2	42
V 精神及び行動の障害	2,561	1,740	821	872	562	310	221	158	63	484	318	166	256	197	59	400	291	109	258	174	84	70	40	30
VI 神経系の疾患	1,588	1,071	517	536	369	167	190	130	60	276	195	81	141	98	43	268	169	99	144	97	47	33	13	20
VII 眼及び付属器の疾患	308	78	230	46	16	30	49	12	37	94	9	85	37	8	29	17	10	7	23	19	4	42	4	38
VIII 耳及び乳突突起の疾患	99	7	92	13	1	12	40	1	39	17	1	16	6	-	6	6	-	6	5	1	4	12	3	9
IX 循環器系の疾患	2,523	1,523	1,000	781	513	268	328	173	155	626	411	215	183	106	77	311	169	142	207	128	79	87	23	64
X 呼吸器系の疾患	970	576	394	295	206	89	150	51	99	194	126	68	86	51	35	99	58	41	91	60	31	55	24	31
XI 消化器系の疾患	1,049	383	666	354	107	247	131	44	87	221	84	137	100	36	64	102	57	45	86	39	47	55	16	39
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	230	66	164	59	27	32	30	8	22	45	11	34	21	6	15	23	6	17	38	7	31	14	1	13
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	1,529	468	1,061	447	140	307	241	76	165	196	90	106	136	31	105	250	38	212	163	72	91	96	21	75
XIV 尿路器系の疾患	916	240	676	237	69	168	74	30	44	223	47	176	122	19	103	122	38	84	103	28	75	35	9	26
XV 妊娠、分娩及び産後	152	94	58	48	36	12	11	5	6	33	19	14	15	8	7	24	16	8	12	8	4	9	2	7
XVI 周産期に発生した病態	48	39	9	18	16	2	6	5	1	11	8	3	3	3	-	7	4	3	2	2	-	1	1	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	75	44	31	35	26	15	3	2	1	19	9	10	6	6	-	7	5	2	4	1	3	1	1	-
XVIII 瘧疾、黄熱及び異常臨床所見・異常検査 所見で他に分類されないもの	267	77	190	61	15	46	28	7	21	79	26	53	34	16	18	37	9	28	15	-	15	13	4	
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,519	939	580	459	309	150	228	139	89	280	182	98	150	76	74	181	103	78	172	109	63	49	21	28
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保 健サービスの利用	533	56	477	173	6	167	60	2	58	112	25	87	36	9	27	91	14	77	46	-	46	15	-	15

(注)病院総数は、患者住所地が県外又は不詳の者を除く数

表2-11 患者の住所地（二次医療圏）・入院-外来別傷病順位（病院）

入院	1位	2位	3位	4位	5位
総数	V 精神及び行動の障害	IX 循環器系の疾患	VI 神経系の疾患	XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	II 新生物
松江圏	V 精神及び行動の障害	IX 循環器系の疾患	VI 神経系の疾患	XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	II 新生物
雲南圏	IX 循環器系の疾患	V 精神及び行動の障害	XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	VI 神経系の疾患	II 新生物
出雲圏	IX 循環器系の疾患	V 精神及び行動の障害	II 新生物	VI 神経系の疾患	XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響
大田圏	V 精神及び行動の障害	IX 循環器系の疾患	VI 神経系の疾患	II 新生物	XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響
浜田圏	V 精神及び行動の障害	VI 神経系の疾患 IX 循環器系の疾患		II 新生物	XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響
益田圏	V 精神及び行動の障害	IX 循環器系の疾患	XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	VI 神経系の疾患	II 新生物
隠岐圏	V 精神及び行動の障害	II 新生物	X 呼吸器系の疾患	IX 循環器系の疾患	XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患 XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響
外来	1位	2位	3位	4位	5位
総数	XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	II 新生物	IX 循環器系の疾患	V 精神及び行動の障害	XIV 尿路器系の疾患
松江圏	V 精神及び行動の障害	XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	IX 循環器系の疾患	II 新生物	XI 消化器系の疾患
雲南圏	XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	IX 循環器系の疾患	II 新生物	X 呼吸器系の疾患	XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響
出雲圏	II 新生物	IX 循環器系の疾患	XIV 尿路器系の疾患	V 精神及び行動の障害	IV 内分泌、栄養及び代謝疾患
大田圏	II 新生物	XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	XIV 尿路器系の疾患	IX 循環器系の疾患	XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響
浜田圏	XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	IX 循環器系の疾患	V 精神及び行動の障害	II 新生物	IV 内分泌、栄養及び代謝疾患
益田圏	II 新生物 XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患		V 精神及び行動の障害	IX 循環器系の疾患	XIV 尿路器系の疾患
隠岐圏	XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	IX 循環器系の疾患	IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	XI 消化器系の疾患	VII 眼及び付属器の疾患

3 患者の動き

(1) 二次医療圏間

◇入院患者

県内の病院に入院していた患者のうち、患者がその住所を有する圏域内の施設で受療した割合は、松江圏 96.7%、益田圏 92.5%、出雲圏 89.1%、浜田圏 87.3%、大田圏 61.4%、雲南圏 58.5%、隠岐圏 53.4%である。流出患者割合が最も高いのは隠岐圏の 46.6%で、このうち 36.3%が松江圏に流出している。雲南圏の流出患者割合は 41.5%でこのうち 21.6%が出雲圏に、19.9%が松江圏に流出している。大田圏の流出患者割合は 38.6%で、このうち 20.5%が出雲圏に、13.0%が浜田圏に流出している。流出患者割合が最も低いのは松江圏で 3.3%である。県外の病院に入院していた患者数については、把握できないため不明である。

一方、施設の所在地別にみた場合、入院施設と同一の圏域内に住所を有する患者の割合は、隠岐圏 100%、雲南圏 96.6%、大田圏 93.4%、益田圏 87.0%、浜田圏 85.3%、松江圏 80.6%、出雲圏 74.0%である。流入患者割合が最も高いのは 26.0%の出雲圏で、県外からの流入が最も多いのは益田圏の 8.1%である(表 2-12、表 2-13、表 2-14)。

表 2-12 患者住所地・施設所在地別患者数 (病院・入院)

(単位:人)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	8,928	3,391	594	2,215	515	1,178	916	119
松江圏	2,825	2,733	6	81	1	4	-	-
雲南圏	981	195	574	212	-	-	-	-
出雲圏	1,840	176	9	1,639	7	9	-	-
大田圏	784	40	-	161	481	102	-	-
浜田圏	1,151	22	-	57	22	1,005	45	-
益田圏	862	6	-	14	-	45	797	-
隠岐圏	223	81	-	23	-	-	-	119
県外	262	138	5	28	4	13	74	-
不詳	-	-	-	-	-	-	-	-

表 2-13 患者住所地別受療施設所在地構成割合 (病院・入院)

(単位:%)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	100.0	38.0	6.7	24.8	5.8	13.2	10.3	1.3
松江圏	100.0	96.7	0.2	2.9	0.0	0.1	-	-
雲南圏	100.0	19.9	58.5	21.6	-	-	-	-
出雲圏	100.0	9.6	0.5	89.1	0.4	0.5	-	-
大田圏	100.0	5.1	-	20.5	61.4	13.0	-	-
浜田圏	100.0	1.9	-	5.0	1.9	87.3	3.9	-
益田圏	100.0	0.7	-	1.6	-	5.2	92.5	-
隠岐圏	100.0	36.3	-	10.3	-	-	-	53.4
県外	100.0	52.7	1.9	10.7	1.5	5.0	28.2	-

表2-14 施設所在地別患者住所構成割合（病院・入院）

(単位:%)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
松江圏	31.6	80.6	1.0	3.7	0.2	0.3	-	-
雲南圏	11.0	5.8	96.6	9.6	-	-	-	-
出雲圏	20.6	5.2	1.5	74.0	1.4	0.8	-	-
大田圏	8.8	1.2	-	7.3	93.4	8.7	-	-
浜田圏	12.9	0.6	-	2.6	4.3	85.3	4.9	-
益田圏	9.7	0.2	-	0.6	-	3.8	87.0	-
隠岐圏	2.5	2.4	-	1.0	-	-	-	100.0
県外	2.9	4.1	0.8	1.3	0.8	1.1	8.1	-
不詳	-	-	-	-	-	-	-	-

◇外来患者

県内の病院で外来を受療した患者のうち、患者の居住する圏域の施設で受療した割合は、益田圏 96.9%、松江圏 96.4%、出雲圏 94.5%、隠岐圏 93.8%、浜田圏 93.0%、雲南圏 69.0%、大田圏 68.8%である。居住している圏域外の病院で受療した割合（流出患者割合）が最も高いのは大田圏 31.2%で、このうち 19.7%が出雲圏、9.8%が浜田圏に流出している。次いで流出患者割合が高いのは雲南圏の 31.0%で、18.1%が出雲圏、12.7%が松江圏に流出している。

一方、施設の所在地別にみた場合、受療施設と同一の圏域内に住所を有する患者の割合は、隠岐圏 99.2%、大田圏 96.9%、雲南圏 96.7%、浜田圏 90.1%、益田圏 88.4%、松江圏 87.4%、出雲圏 76.7%である。圏域外に居住する患者の割合（流入患者割合）が最も高いのは 23.3%の出雲圏であり、このうち 9.1%を雲南圏、7.6%を大田圏が占めている（表2-15、表2-16、表2-17）。

表2-15 患者住所地・施設所在地別患者数（病院・外来）

(単位:人)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	9,080	2,793	814	2,271	621	1,226	870	485
松江圏	2,532	2,440	16	75	-	1	-	-
雲南圏	1,140	145	787	206	1	-	-	1
出雲圏	1,843	92	4	1,741	3	1	2	-
大田圏	875	15	-	172	602	86	-	-
浜田圏	1,188	3	-	45	7	1,105	28	-
益田圏	794	2	-	9	-	14	769	-
隠岐圏	513	30	-	2	-	-	-	481
県外	195	66	7	21	8	19	71	3
不詳	-	-	-	-	-	-	-	-

表2-16 患者住所地別受療施設所在地構成割合（病院・外来）

(単位:%)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	100.0	30.8	9.0	25.0	6.8	13.5	9.6	5.3
松江圏	100.0	96.4	0.6	3.0	-	0.0	-	-
雲南圏	100.0	12.7	69.0	18.1	0.1	-	-	0.1
出雲圏	100.0	5.0	0.2	94.5	0.2	0.1	0.1	-
大田圏	100.0	1.7	-	19.7	68.8	9.8	-	-
浜田圏	100.0	0.3	-	3.8	0.6	93.0	2.4	-
益田圏	100.0	0.3	-	1.1	-	1.8	96.9	-
隠岐圏	100.0	5.8	-	0.4	-	-	-	93.8
県外	100.0	33.8	3.6	10.8	4.1	9.7	36.4	1.5

表2-17 施設所在地別患者住所構成割合（病院・外来）

(単位:%)

患者住所地	施設所在地							
	総数	松江圏	雲南圏	出雲圏	大田圏	浜田圏	益田圏	隠岐圏
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
松江圏	27.9	87.4	2.0	3.3	-	0.1	-	-
雲南圏	12.6	5.2	96.7	9.1	0.2	-	-	0.2
出雲圏	20.3	3.3	0.5	76.7	0.5	0.1	0.2	-
大田圏	9.6	0.5	-	7.6	96.9	7.0	-	-
浜田圏	13.1	0.1	-	2.0	1.1	90.1	3.2	-
益田圏	8.7	0.1	-	0.4	-	1.1	88.4	-
隠岐圏	5.6	1.1	-	0.1	-	-	-	99.2
県外	2.1	2.4	0.9	0.9	1.3	1.5	8.2	0.6
不詳	-	-	-	-	-	-	-	-

(2) 市町村別

病院で受療した入院・外来患者の移動状況を市町村別にみると、自市町村内に病院施設のない美郷町、海士町、知夫村を除くと自市町村外の医療施設へ流出した患者の割合が最も高いのは52.9%の津和野町で、次いで48.2%の奥出雲町となっている。

一方、自市町村外の医療施設へ流出した患者の割合が最も少ないのは、5.7%の松江市、次いで7.5%の益田市となっている。

また、他市町村から流入した患者の割合が高いのは、川本町35.1%、江津市27.4%、吉賀町26.1%である（表2-18）。

表2-18 圏域・市町村別にみた受療地状況 (病院：入院+外来)

【病院、(入院+外来)】								
(単位：人、%)								
圏域 市町村	患者住所地 別患者数	自圏 自市町村 医療施設 受療患者数	施設所在地別 患者数	流出 患者数	流入 患者数	流出 患者割合	自市町村 医療施設 受療割合	流入 患者割合
	(A)	(B)	(C)	(D):(A)-(B)	(E):(C)-(B)	(D)/(A)	(B)/(A)	(E)/(C)
総数	18,008	14,379	18,008	3,629	3,629	20.2	79.8	20.2
松江圏	5,357	5,173	6,184	184	1,011	3.4	96.6	16.3
雲南圏	2,121	1,361	1,408	760	47	35.8	64.2	3.3
出雲圏	3,683	3,380	4,486	303	1,106	8.2	91.8	24.7
大田圏	1,659	1,083	1,136	576	53	34.7	65.3	4.7
浜田圏	2,339	2,110	2,404	229	294	9.8	90.2	12.2
益田圏	1,656	1,566	1,786	90	220	5.4	94.6	12.3
隠岐圏	736	600	604	136	4	18.5	81.5	0.7
松江市	4,258	4,015	5,055	243	1,040	5.7	94.3	20.6
浜田市	1,485	1,281	1,611	204	330	13.7	86.3	20.5
出雲市	3,683	3,380	4,486	303	1,106	8.2	91.8	24.7
益田市	1,201	1,111	1,427	90	316	7.5	92.5	22.1
大田市	1,060	621	734	439	113	41.4	58.6	15.4
安来市	1,099	970	1,129	129	159	11.7	88.3	14.1
江津市	854	576	793	278	217	32.6	67.4	27.4
雲南市	1,425	842	977	583	135	40.9	59.1	13.8
奥出雲町	448	232	248	216	16	48.2	51.8	6.5
飯南町	248	170	183	78	13	31.5	68.5	7.1
川本町	164	87	134	77	47	47.0	53.0	35.1
美郷町	120	・	・	120	・	100.0	・	・
邑南町	294	226	268	68	42	23.1	76.9	15.7
津和野町	240	113	121	127	8	52.9	47.1	6.6
吉賀町	213	176	238	37	62	17.4	82.6	26.1
海士町	32	・	・	32	・	100.0	・	・
西ノ島町	151	121	136	30	15	19.9	80.1	11.0
知夫村	13	・	・	13	・	100.0	・	・
隠岐の島町	530	458	468	72	10	13.6	86.4	2.1
市町村名不明(邑智郡)	21							
市町村名不明(鹿足郡)	2							
市町村名不明(隠岐郡)	10							
県外	457	-	・	・	・	・	・	・
不詳	-	-	・	・	・	・	・	・

4 入院患者

病院に入院している患者を入院の状況別の構成割合で見ると、「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」が最も多く、入院患者総数の 78.2% を占める。次いで「受け入れ条件が整えば退院可能」が 11.0%、「生命の危険がある」が 5.8%、「その他」が 4.2% である。

「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」の割合が最も高いのは 10～14 歳 (87.0%) で、「生命の危険がある」の割合が最も高いのは 100 歳以上 (9.4%) であった (表 2-19、表 2-20)。

表 2-19 入院の状況・年齢階級別患者数 (病院)

表 2-20 入院の状況・年齢階級別割合 (病院)

(単位:人)

年齢階級	総数	生命の危険は少ない	生命の危険がある	受け入れ条件が整えば退院可能	検査入院	その他	不詳
総数	8,928	6,985	516	978	70	376	3
0歳	62	50	11	1	-	-	-
1歳	16	11	1	2	-	2	-
2歳	10	8	-	-	1	1	-
3歳	9	7	1	-	-	1	-
4歳	5	3	-	-	1	1	-
1～4歳	40	29	2	2	2	5	-
5～9歳	13	10	-	2	1	-	-
10～14歳	46	40	2	2	-	2	-
15～19歳	47	33	3	8	-	3	-
20～24歳	84	65	2	10	-	7	-
25～29歳	113	94	3	8	-	8	-
30～34歳	156	126	2	16	1	11	-
35～39歳	177	132	4	25	1	15	-
40～44歳	199	154	9	28	1	7	-
45～49歳	198	148	9	27	1	13	-
50～54歳	247	188	10	44	1	4	-
55～59歳	392	310	20	42	5	15	-
60～64歳	640	494	24	78	9	34	1
65～69歳	815	653	50	79	8	25	-
70～74歳	833	669	43	83	14	24	-
75～79歳	1,093	852	76	112	10	43	-
80～84歳	1,375	1,091	78	136	10	59	1
85～89歳	1,273	971	86	158	4	53	1
90～94歳	782	617	58	77	1	29	-
95～99歳	289	224	19	33	1	12	-
100歳以上	53	35	5	6	-	7	-
不詳	1	-	-	1	-	-	-
65歳以上(再掲)	6,513	5,112	415	684	48	252	2
70歳以上(再掲)	5,698	4,459	365	605	40	227	2
80歳以上(再掲)	3,772	2,938	246	410	16	160	2

(単位:%)

年齢階級	総数	生命の危険は少ない	生命の危険がある	受け入れ条件が整えば退院可能	検査入院	その他	不詳
総数	100.0	78.2	5.8	11.0	0.8	4.2	0.0
0歳	100.0	80.6	17.7	1.6	-	-	-
1歳	100.0	68.8	6.3	12.5	-	12.5	-
2歳	100.0	80.0	-	-	10.0	10.0	-
3歳	100.0	77.8	11.1	-	-	11.1	-
4歳	100.0	60.0	-	-	20.0	20.0	-
1～4歳	100.0	72.5	5.0	5.0	5.0	12.5	-
5～9歳	100.0	76.9	-	15.4	7.7	-	-
10～14歳	100.0	87.0	4.3	4.3	-	4.3	-
15～19歳	100.0	70.2	6.4	17.0	-	6.4	-
20～24歳	100.0	77.4	2.4	11.9	-	8.3	-
25～29歳	100.0	83.2	2.7	7.1	-	7.1	-
30～34歳	100.0	80.8	1.3	10.3	0.6	7.1	-
35～39歳	100.0	74.6	2.3	14.1	0.6	8.5	-
40～44歳	100.0	77.4	4.5	14.1	0.5	3.5	-
45～49歳	100.0	74.7	4.5	13.6	0.5	6.6	-
50～54歳	100.0	76.1	4.0	17.8	0.4	1.6	-
55～59歳	100.0	79.1	5.1	10.7	1.3	3.8	-
60～64歳	100.0	77.2	3.8	12.2	1.4	5.3	0.2
65～69歳	100.0	80.1	6.1	9.7	1.0	3.1	-
70～74歳	100.0	80.3	5.2	10.0	1.7	2.9	-
75～79歳	100.0	78.0	7.0	10.2	0.9	3.9	-
80～84歳	100.0	79.3	5.7	9.9	0.7	4.3	0.1
85～89歳	100.0	76.3	6.8	12.4	0.3	4.2	0.1
90～94歳	100.0	78.9	7.4	9.8	0.1	3.7	-
95～99歳	100.0	77.5	6.6	11.4	0.3	4.2	-
100歳以上	100.0	66.0	9.4	11.3	-	13.2	-
不詳	100.0	-	-	100.0	-	-	-
65歳以上(再掲)	100.0	78.5	6.4	10.5	0.7	3.9	0.0
70歳以上(再掲)	100.0	78.3	6.4	10.6	0.7	4.0	0.0
80歳以上(再掲)	100.0	77.9	6.5	10.9	0.4	4.2	0.1

病院に入院している患者の入院の状況別を傷病大分類別にみると、「生命の危険は少ないが入院治療、手術を要する」の割合が高い傷病は、「XⅢ筋骨格系及び結合組織の疾患」で 89.0% である。

また、「生命の危険がある」の割合が高い傷病は、「XⅥ周産期に発生した病態」(18.6%)、「Ⅱ新生物」(13.5%)、「Ⅰ感染症及び寄生虫症」(11.5%)、「XⅦ先天奇形、変形および染色体異常」(10.2%) である。「受け入れ条件が整えば退院可能」の割合が高い傷病は、「Ⅴ精神及び行動の障害」(21.3%)、次いで「Ⅷ耳及び乳様突起の疾患」(14.3%) となっている。「検査入院」の割合が高い傷病は、「XⅧ症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの」(2.6%)、「Ⅱ新生物」(2.3%) であった (表 2-21、表 2-22)。

表2-21 入院の状況・傷病分類別患者数（病院）

(単位:人)

疾病大分類	総数	生命の危険は少ない	生命の危険がある	受け入れ条件が整えば退院可能	検査入院	その他	不詳
総数	8,928	6,985	516	978	70	376	3
I 感染症及び寄生虫症	122	92	14	8	-	8	-
II 新生物	930	695	126	49	21	39	-
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	44	37	2	4	-	1	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	194	144	10	23	3	14	-
V 精神及び行動の障害	1,805	1,307	95	385	1	16	1
VI 神経系の疾患	1,135	884	58	124	9	60	-
VII 眼及び付属器の疾患	79	67	-	9	-	3	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	7	6	-	1	-	-	-
IX 循環器系の疾患	1,550	1,215	96	133	16	90	-
X 呼吸器系の疾患	587	466	49	48	3	21	-
XI 消化器系の疾患	385	300	21	34	7	23	-
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	69	58	2	6	1	2	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	483	430	2	32	4	15	-
XIV 尿路器系の疾患	249	213	6	20	-	10	-
XV 妊娠、分娩及び産じょく	100	73	1	7	-	19	-
XVI 周産期に発生した病態	43	34	8	1	-	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	49	43	5	-	-	1	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	77	59	2	8	2	6	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	962	828	18	80	2	33	1
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	58	34	1	6	1	15	1

表2-22 入院の状況・傷病分類別患者割合（病院）

(単位:%)

疾病大分類	総数	生命の危険は少ない	生命の危険がある	受け入れ条件が整えば退院可能	検査入院	その他	不詳
総数	100.0	78.2	5.8	11.0	0.8	4.2	0.0
I 感染症及び寄生虫症	100.0	75.4	11.5	6.6	-	6.6	-
II 新生物	100.0	74.7	13.5	5.3	2.3	4.2	-
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	100.0	84.1	4.5	9.1	-	2.3	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	100.0	74.2	5.2	11.9	1.5	7.2	-
V 精神及び行動の障害	100.0	72.4	5.3	21.3	0.1	0.9	0.1
VI 神経系の疾患	100.0	77.9	5.1	10.9	0.8	5.3	-
VII 眼及び付属器の疾患	100.0	84.8	-	11.4	-	3.8	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	100.0	85.7	-	14.3	-	-	-
IX 循環器系の疾患	100.0	78.4	6.2	8.6	1.0	5.8	-
X 呼吸器系の疾患	100.0	79.4	8.3	8.2	0.5	3.6	-
XI 消化器系の疾患	100.0	77.9	5.5	8.8	1.8	6.0	-
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	100.0	84.1	2.9	8.7	1.4	2.9	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	100.0	89.0	0.4	6.6	0.8	3.1	-
XIV 尿路器系の疾患	100.0	85.5	2.4	8.0	-	4.0	-
XV 妊娠、分娩及び産じょく	100.0	73.0	1.0	7.0	-	19.0	-
XVI 周産期に発生した病態	100.0	79.1	18.6	2.3	-	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	100.0	87.8	10.2	-	-	2.0	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	100.0	76.6	2.6	10.4	2.6	7.8	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	100.0	86.1	1.9	8.3	0.2	3.4	0.1
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	100.0	58.6	1.7	10.3	1.7	25.9	1.7

5 【参考】退院患者

退院患者について、今回、独自調査を行っていないため、厚生労働省が実施した「平成26年患者調査」の結果を掲載する。

(1) 推計退院患者数

平成26年9月の1か月間に病院から退院した推計患者は9.0千人であった(表2-23)。

傷病分類別にみると、「Ⅱ新生物」が1.8千人で最も多く、次いで「Ⅸ循環器系の疾患」が1.1千人、「XⅠ消化器系の疾患」が1.0千人となっている(表2-24)。

表2-23 推計退院患者数、性・年齢階級別(病院)

(単位:千人)			
年齢階級	総数	男	女
総数	9.0	4.5	4.5
0～4歳	0.5	0.3	0.2
5～14歳	0.2	0.1	0.1
15～24歳	0.2	0.1	0.1
25～34歳	0.5	0.1	0.4
35～44歳	0.5	0.2	0.3
45～54歳	0.5	0.3	0.2
55～64歳	1.1	0.7	0.4
65～74歳	1.7	1.0	0.7
75～84歳	2.3	1.2	1.1
85歳以上	1.6	0.6	1.0
不詳	0.0	0.0	0.0
65歳以上(再掲)	5.5	2.7	2.8
70歳以上(再掲)	4.7	2.2	2.5
75歳以上(再掲)	3.9	1.7	2.1

表2-24 推計退院患者数、傷病分類別(病院)

(単位:千人)	
傷病大分類	総数
総数	9.0
I 感染症及び寄生虫症	0.2
Ⅱ 新生物	1.8
悪性新生物(再掲)	1.6
Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.1
Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患	0.3
Ⅴ 精神及び行動の障害	0.3
Ⅵ 神経系の疾患	0.3
Ⅶ 眼及び付属器の疾患	0.4
Ⅷ 耳及び乳様突起の疾患	0.0
Ⅸ 循環器系の疾患	1.1
心疾患(高血圧性のものを除く)(再掲)	0.5
脳血管疾患(再掲)	0.4
X 呼吸器系の疾患	0.9
XⅠ 消化器系の疾患	1.0
XⅡ 皮膚及び皮下組織の疾患	0.1
XⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患	0.5
XⅣ 腎尿路生殖器系の疾患	0.4
XⅤ 妊娠、分娩及び産じょく	0.4
XⅥ 周産期に発生した病態	0.2
XⅦ 先天奇形、変形及び染色体異常	0.0
XⅧ 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.1
XⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響	0.9
XⅩⅠ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.1

資料:「平成26年患者調査」(厚生労働省大臣官房統計情報部)

(2) 平均在院日数

平成26年9月の1か月間に病院を退院した患者の平均在院日数は32.1日である。年齢階級別にみると、85歳以上が最も長く50.2日で、次いで45～54歳の45.6日である(表2-25)。

傷病大分類別にみると、「VI神経系の疾患」が132.5日で最も長く、次いで「V精神及び行動の障害」が127.9日となっている。また、悪性新生物は26.2日、心疾患(高血圧性のものを除く)は17.8日、脳血管疾患は94.3日となっている(表2-26)。

表2-25 退院患者平均在院日数、性・年齢階級別(病院)

(単位:日)

年齢階級	総数	男	女
総数	32.1	26.3	37.9
0～4歳	7.2	7.7	6.6
5～14歳	37.8	57.7	8.3
15～24歳	11.8	11.9	11.8
25～34歳	10.2	11.0	9.9
35～44歳	12.3	15.2	10.1
45～54歳	45.6	19.8	80.9
55～64歳	33.5	22.6	53.4
65～74歳	31.3	30.9	31.9
75～84歳	32.7	25.1	40.7
85歳以上	50.2	41.0	55.4
不詳	3.5	1.0	6.0
65歳以上(再掲)	37.3	30.6	43.8
70歳以上(再掲)	39.0	31.8	45.4
75歳以上(再掲)	40.0	30.4	47.8

表2-26 退院患者平均在院日数、傷病分類別(病院)

(単位:日)

傷病大分類	総数
総数	32.1
I 感染症及び寄生虫症	14.2
II 新生物	24.3
悪性新生物(再掲)	26.2
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	19.5
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	21.9
V 精神及び行動の障害	127.9
VI 神経系の疾患	132.5
VII 眼及び付属器の疾患	3.3
VIII 耳及び乳様突起の疾患	7.9
IX 循環器系の疾患	48.0
心疾患(高血圧性のものを除く)(再掲)	17.8
脳血管疾患(再掲)	94.3
X 呼吸器系の疾患	23.1
X I 消化器系の疾患	14.3
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	21.1
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	35.5
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	25.8
X V 妊娠、分娩及び産じょく	7.9
X VI 周産期に発生した病態	12.5
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	13.4
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	57.2
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	31.9
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	5.1

資料:「平成26年患者調査」(厚生労働省大臣官房統計情報部)